

三浦市公共下水道事業におけるコンセッション導入可能性調査

調査目的・これまでの経緯

三浦市では、公共下水道事業の効率化のため、CFMPを活用したPFI法に基づくコンセッション方式導入の可能性について検討することとした。

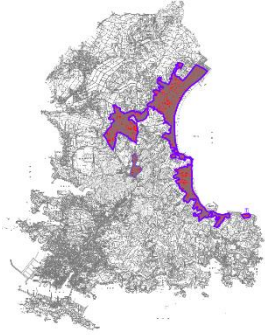
CFMP (Comprehensive Facilities Management Plan) とは、主にアメリカで行われている施設管理計画の手法であり、資産の運転パフォーマンスの向上を目指し、技術革新、プロセス改善を取り入れて、資産の運転、金融、エネルギー、環境など複合的な指標を管理し、運用改善を行う資産管理中心のアプローチ手法である。

平成26年8月に三浦市公共下水道事業におけるCFMP導入の可能性に係る報告書が東洋大学から三浦市に提出された。

施設の概要

【三浦市公共下水道の概要】

- 排除方式 分流式
- 整備面積 213.48ha
- 区域内人口 15,473人(人口普及率33.4%)
- 施設概要
 - 幹線管きよ 約8,496m
 - 金田中継センター(ポンプ場) 約470m²
 - 東部浄化センター 約2.1ha
- 処理方法 標準活性汚泥法
- 処理能力 約8,050m³/日



調査結果

1. モニタリングツールとしてのCFMPの調査

アメリカで行われている下水道事業へのCFMPの適用を調査したところ、施設・設備の機器類関係の保守のみならず、アセットマネジメント、エネルギーコントロール、プロセスマネジメント、ヒューマンリソースなど幅広い観点で徹底した検証を行い、それらを網羅した総合的な管理計画であり、コスト削減に効果的な手法であることが確認された。

2. 三浦市公共下水道事業にコンセッションを導入する際の各種検討

上記を踏まえ、三浦市公共下水道事業にコンセッションを導入する際の各種評価を行った結果、導入の効果があると判断され、これにCFMPを活用することで、更に効果があることが明らかになった。

- ・ コンセッションを活用することで、CFMPを活用したアセットマネジメントの実施、維持管理費用の削減、更新投資支出の縮減、マンパワーの活用、エネルギー管理、人材教育等広範囲な民間活用の実施が可能となり、広く民間のノウハウと知恵を引き出すことができる事業の実現の可能性があることが示された。
- ・ 財務シミュレーションにより、一般会計繰入金相当額と国庫補助金相当額の削減に着目し評価した結果、整備費と運営管理費の組み合わせによりCFMPコンセッションを導入し、コストの削減を図ることの効果はと判断された。
- ・ コンセッションの運営権対価は現在の三浦市公共下水道事業における採算性に鑑み、0円を基本とした。
- ・ 民間事業者のヒアリング調査の結果、三浦市における下水道事業へのコンセッション参入意向が確認できた。また、同規模自治体でのコンセッション参入の可能性も期待される。

3. 導入に向けての実施方針・仕様書等及び導入スケジュールの提示

市が作成するコンセッションの実施方針等のポイントをCFMPを参考に整理し、三浦市公共下水道事業にコンセッションを導入するための今後のスケジュール案が提示された。

本報告を受け、三浦市では平成28年4月から導入に向けて作業着手し、2年後の平成30年4月には、今の包括業務委託に代わり、コンセッションの導入を目指す。

今後の展望

今後の予定

平成28年度	下水道デューデリジェンスの準備、実施
平成28年12月頃	基本計画、実施方針、要求水準書策定
平成29年1月頃	同上公表 事業者募集
平成29年6月頃	優先交渉権者選定 協定締結
平成29年7月頃	事業実施協議開始
平成30年3月頃	事業実施最終確認
平成30年4月	事業実施

事業化にあたっての実務的な課題

- ・ 精緻な更新投資支出の算定
- ・ 付帯業務の検討
- ・ 性能発注の際の会計検査院対応
- ・ 一般会計繰り入れの継続
- ・ 管路の点検・修繕等のアセットマネジメントのあり方
- ・ 既存企業の優位性の排除
- ・ 運営権者の利益水準の認定

等